

＜校内サポートルーム（KSR）研究指定校事業＞

1 研究主題

「個別最適な学習環境づくり」
～安心とつながりのある居場所を目指して～

2 児童の実態

令和5年12月1日時点で、不登校として累計30日以上欠席している児童は15名いる。そのうち、現在は登校し学級で過ごしている児童が6名、KSRで過ごしている児童が2名、ほとんど登校できていない児童が7名いる。また、30日は超えていないが、様々な理由で学級に入れていない児童が5名おり、その児童は全てKSRで過ごしている。時間、期間の長短はあるが、現在、合計7名の児童がKSRで過ごしている。

KSRで過ごしている児童は、ほとんど欠席せず登校している。笑顔も見られ、安心して過ごす姿が見られている。また、特定の教科や給食の時間など、自分の学級に入れるようになった児童も数名いる。

3 校内の環境

KSRの部屋を1階カウンセリング室と3階の2教室、あわせて3教室としている。＜図1＞児童は、その日の活動や自分の気持ちに合わせてどの部屋で過ごすか自己選択できるようにしている。＜図2＞KSR担当と学級担任、養護教諭、養護助教諭が連携を取り、学校で安心して、学習や生活ができるように支援している。



＜図1＞KSR教室



＜図2＞カーテンで
区切ることのできるブース

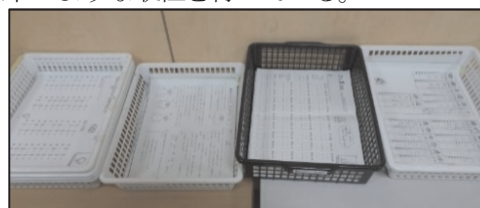
学習においては、ICT機器を活用し、学級での授業の様子をオンラインで視聴できるようにしている。また、家庭にICT機器を貸し出し、学校に登校できない時でも学習の保障や学校とのつながりを大切に考え、進めている。

4 研究の取組

KSRが家庭と学校、学級へとつながる場であるために、以下のような取組を行っている。

(1) ICT機器を用いた支援

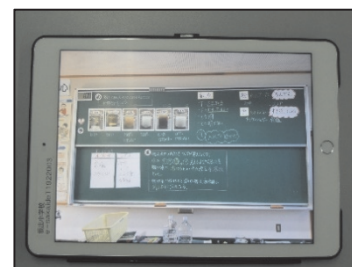
- ① Web会議システムを用いたオンライン授業
- ② 学習支援アプリを用いた児童とのやり取り



＜図3＞学習用プリント

(2) 個に応じた支援

- ① 学習支援
 - ・ 児童の自己決定による学習予定表と振り返りファイル
 - ・ 学年・教科ごとに分類した学習用プリント＜図3＞
 - ・ 各学級での授業の板書をタブレットで撮影・印刷・配布＜図4＞
- ② 生活支援・社会性の向上
 - ・ 給食の時間や休み時間等での友人との関わり
 - ・ チームによる組織的な関わり
- ③ 心理面のケア
 - ・ 養護教諭や養護助教諭、スクールカウンセラーとの連携
 - ・ 個別のカウンセリングやアセスメント等の支援と定期的な担当者会



＜図4＞板書を撮影したタブレット

5 成果と課題

- 学習に向かう姿勢の定着、交流学級への参加、放課後の登校
- 学校、学級との関わりが少ない児童への今後のアプローチ、自身の成長の可視化、保護者との連携